



風疹流行にご注意

2013.4.15

★ 2013年の風疹事情

風疹ウイルスが猛威をふるっています。国立感染症研究所の集計によると、全国の感染者数は、今年（2013年）の始めから3月末までに累計2903人で、調査を開始した2008年以降で最多だった昨年の年間感染者数である2353人をすでに上回っていることが分かりました。感染の特徴は、80%が20～40代の男性で、女性では20代が多いことです。そして感染は、首都圏から、中部、関西へと全国的な広がりを見せています。それにもかかわらず予防接種を受けている人は20%と少ないため、厚生労働省は注意を呼びかけています。



★ 妊娠初期の女性は要注意

風疹は、感染者の咳やくしゃみから空気中に飛び散った風疹ウイルスを吸い込むことで感染します。通常は比較的軽い発熱や発疹で終わりますが、妊娠初期（4週目から16週目）の女性が感染すると、胎児に先天性風疹症候群と呼ばれる異常が生じます。この時期は、胎児の臓器や組織が形成される器官形成期（臨界期）なので、この時期に母親が風疹ウイルスに感染すると、胎児に障害が発生する可能性が高くなるのです。障害の中心となるのが先天性心臓疾患で、他に白内障・緑内障・網膜症・聴覚障害（感音性難聴といって中耳から脳に原因のある難聴）が起きます。

風疹の予防接種は、従来女子中学生のみが学校で集団接種を受けており、男子学生は受けていませんでした。男性の患者が多いのはこのためだと思われます。現在は、1歳児と小学校入学1年前の幼児を対象に、公費助成による麻疹（はしか）との混合ワクチンの接種が行なわれています。混合ワクチンは公費助成がない場合、1万円くらいの実費がかかります。

風疹は抗体価を検査することによって、初感染や再感染の可能性を見極めることができます。再感染の場合は、妊娠初期に感染しても胎児が奇形を起こす可能性はかなり低くなるので、出生前診断（DNA増幅による遺伝子診断）を受けると安心です。

現在、有効な治療法はありませんが、一度感染するか予防接種を受けることで十分な免疫ができ、その効果は生涯有効です。厚生労働省では、妊娠中には予防接種を受けることができないので、妊娠を望む女性やその夫・家族に対して、あらかじめ風疹ワクチンの予防接種を受けるよう呼びかけています。

★ 男性も自覚を持ちましょう

風疹は、春から初夏にかけて多くなる傾向にあります。流行は若い男性を中心に、全国へと広がっています。男性の感染者は女性の3～4倍で、20～40代が患者の80～90%を占めています。男性は感染してもそれほど問題がないのですが、本人に自覚がないまま女性、特に妊婦に感染させてしまうことが問題となるのです。

晩婚化が進む今日、女性の出産平均年齢も上昇しています。高齢出産では障害児が生まれる確率が高くなります。それに風疹ウイルスというリスクが重なることは防がなければなりません。男性も他人ごとと思わずに予防接種を受けるようにしましょう。各自が自己免疫力を高め、病気にかからないカラダづくりを心がけることは言うまでもありません。